

平成 31 年 1 月
総務局行政経営課

議事要旨

- 1 名 称：第 9 回北九州市外郭団体評価会議
- 2 開催日時：平成 30 年 1 月 2 日（金） 10 時 00 分～12 時 00 分
- 3 開催場所：北九州市役所本庁舎 3 階 特別会議室 B
- 4 出席構成員：明石座長、笠目氏、加藤氏、菊池氏、能美氏、福地氏
- 5 議 題 1：「外郭団体のミッション遂行状況の評価等について」

(1) 公益財団法人 北九州国際交流協会 (KIA)

- 団体の専門性を活かし、今後増加する外国人のサポートを行ってほしい。
- 団体が行った活動や成果を、もっと広報して市民へ周知すべきではないか。

(2) 公益財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム (KFAW)

- 税制面のメリットも財政規模的に大きくないため、公益法人であることの必要性を改めて考えてほしい。

(3) 公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団

- 公演の「稼働率」といった集客視点の指標とともに、芸術文化の普及という視点から、例えば、公演の「満足度」を指標とするなど、事業の目的や性質ごとに成果指標を変えてはどうか。

(4) 公益財団法人 北九州国際技術協力協会

- 短期的ではなく、中長期的な視点で活動に取り組んで欲しい。例えばどの国から人材を集めるかといった方向性を持つことが必要。
- JICA からの研修受託収入が減少していくことを見越して、将来的な展望を長期的に考えなければならない。

(5) 北九州市住宅供給公社

- 今後 30 年間で人口は約 20% 程度減少していく。そのため、住宅の集約化・用途転換など、スピード感をもって取り組んでもほしい。
- 公社の役割が終了したとは思っていない。ただし、人口減少や民間との競争激化などを踏まえると、これまでと同じやり方では赤字となり、市の負担となってしまうのではないか。

(6) 公益財団法人 北九州市学校給食協会

- 児童・生徒のために、給食物資を安定的に供給することが団体の目的なので、そこを意識してほしい。
- 団体の目的からも、地産地消には過度にこだわらず、努力目標程度で良いのではないかな。

(7) その他全体

- 成果指標の設定においては、今後の人口減少に左右されない指標も検討すべき。
- 設定している成果指標が、本当にミッション達成のために必要なものと言えるのか、もう一度精査してほしい。

6 議題 2 : 「北九州産業推進機構のミッション遂行状況評価票見直しについて」

- 「企業活動の生産性向上」に対する成果を、どう定義付けするか、また、研究開発から事業化までのプロセスをどのように測るのが課題。例えば、研究結果によって、特許出願件数や権利化の件数を指標にしてはどうか。